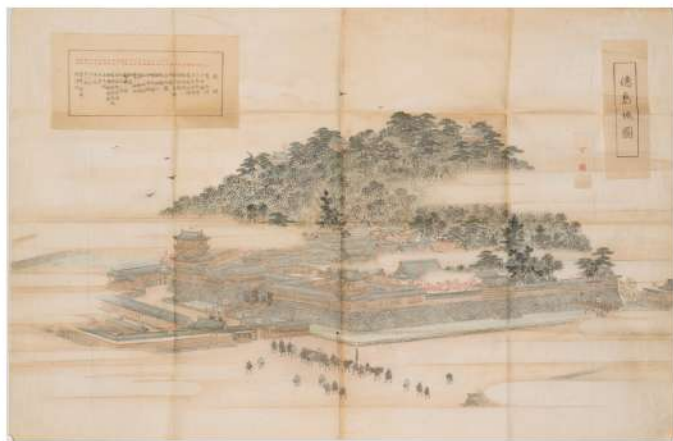


阿波コレクション

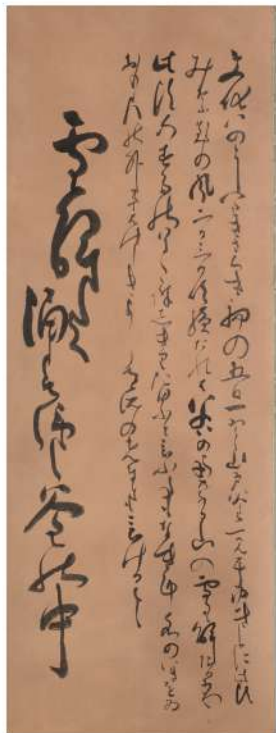
近代が伝えた近世の阿波

江戸時代、四国最大の石高を誇った徳島藩蜂須賀家。居城の徳島城を中心に徳島藩二五万七〇〇〇石の城下町であった徳島も全国有数の都市として繁栄しました。近代以降、武士による政治の中心としての役目を終えた徳島城では、廃藩置県の翌年にあたる明治五年（一八七二）の展覧会をはじめ、人びとに開かれた展覧会が行われました。大正初期には二度にわたって「民政資料展覧会」が開催されます。徳島藩や蜂須賀家に関する歴史資料が数多く公開され、大冊の資料集も刊行されました。当時収集された資料は、蜂須賀家の政治的資料をはじめ、阿波藍や水軍など、江戸時代の阿波を物語るに欠かせない貴重なものが数多く含まれています。

本展では、約一〇年前に徳島城で開かれた展覧会を現代風にアレンジしてご紹介します。近代に守り伝えられた近世阿波の歴史資料から、現代の徳島に通じる豊かな歴史をお楽しみください。



《徳島城図》 大正時代 当館蔵 蜂須賀正子氏寄贈



「蜂須賀治昭揮毫書幅」
文化8年(1811)
当館蔵 谷成泰氏寄贈



「太守様御料理頂戴仕候箸」
当館蔵
吉田哲氏寄贈



「諸御触御状之控帳」
元文3年(1738)
当館蔵
吉田哲氏寄贈



「飯留桶側二枚胴具足」 当館蔵 吉田哲氏寄贈



《徳島藩参勤交代渡海図屏風》 当館蔵 有賀上次氏寄贈